



PDA 即興型英語ディベート キーノートディベート (11月)

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2022年11月27日(日) 10:00-11:30

会場：オンライン (Zoom)

参加者：5名 (ディベーター4名、ジャッジ1名)

はじめに PDA 代表理事中川智皓より、本日のキーノートスピーカーである中條壯大 氏 (大阪公立大学大学院工学研究科 准教授) の紹介がありました。

キーノートスピーカー紹介後は、参加者がお互いに自己紹介をしたのち、チーム分けと論題が発表されました。



キーノートスピーカー紹介

ディベートの様子

キーノートディベートの論題は、To realize a low-carbon society, Japan should adopt solar power, which is unstable but can be deployed on both a large and small system, rather than nuclear power, which provides stable power. (低炭素型社会の実現のために、安定した電力が得られる原子力発電よりも、不安定な電力だが大規模にも小規模にも導入できる太陽光発電を導入すべきだ。) でした。肯定側は、福島やチェルノブイリ原発事故を例にあげ、安全面で懸念点があるということや、仮に事故が起きた場合に環境へ悪影響が出てしまい、脱炭素社会を目指す目的が損なわれてしまうことなどについて説明しました。そして否定側は安定した電力供給の重要性について、医療面への影響を具体的に説明しながら論を展開しました。それぞれの発電方法の特徴を深く分析したディベートとなりました。ディベートを終えるとエアークラップを交わしたのち、ジャッジ参加者よりフィードバックが行われました。



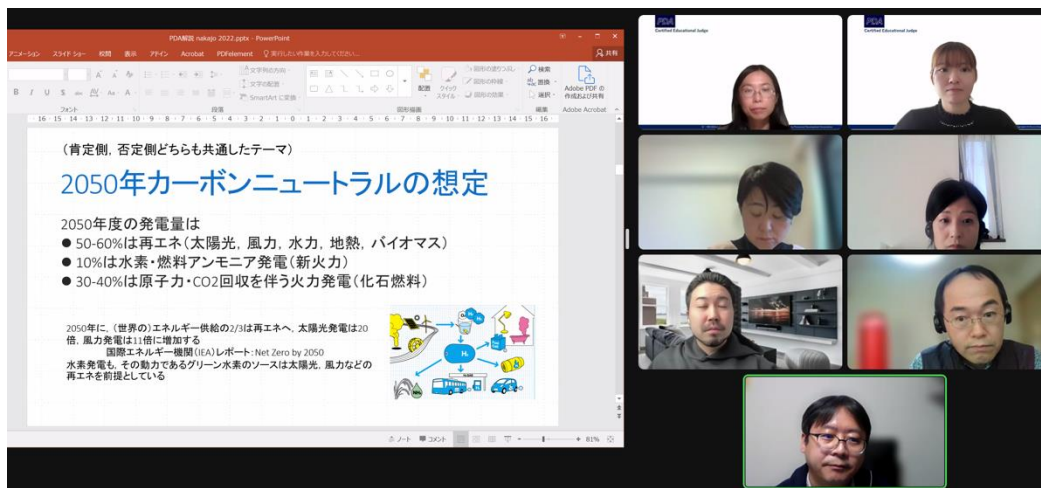
ディベートの様子



ディベート後のエアークラップの様子

キーノートスピーチでは、中條壯大先生より、各発電方法の特徴をご説明いただき、ご自身の研究との関連についても解説いただきました。特に、日本という場に着目した際に、地震や津波、台風、豪雨などが多いという自然環境が発電にどのような影響を与えるのかや、それらを予測することは可能なのかなどについても詳しくレクチャーいただきました。

質疑応答ではディベートと関連づけた質問をしようとたくさんの方が手があがりました。脱炭素社会を目指すにあたって、短長期的にはどの発電方法が相応しいのか、太陽光発電と水力発電だとどちらの方が実現可能性が高いか、施設や発電に用いられる設備のライフサイクルまで考慮すると脱炭素社会に貢献できる発電方法は何かなどの質問に対し、さらに詳細を解説いただき、ディベートでの議論を地に足のついたものにしようとする試みとなりました。



キーノートレクチャーの様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

- 今日も非常によい学びになりました！前回と似た論題でしたが、少し違う観点だったので、学びが深まりました！ありがとうございました！
- 論題についてディベート専門の先生のお話をお伺いすることで、今後のディベートにも活かせるような学びにつながったと感じております。ありがとうございました。
- 本日はキーノートレクチャーも大変興味深い内容でした。また次回もどうぞよろしくお願ひいたします。
- 全体像(ex. life cycle の比較, 台風がどれでのリスクを太陽光発電に影響を及ぼすなど)について学ぶことができ、大変よかった。
- 太陽光発電についての問題点について専門家から教えていただいたので勉強になりました。次回も参加したいです。